

油火災に備えて消防訓練を実施しました

東通原子力発電所(所長 渡部孝男)は、平成20年5月21日、自衛消防隊による本年度第1回目の消防訓練を、発電所構内において実施いたしました。

当発電所では年間を通じて計画的に消防訓練を行っておりますが、今回の訓練は油火災を想定し、自衛消防隊の円滑な初期消火活動を図ることを目的として実施したものです。

訓練では、構内に新設した消火訓練場(下写真)を火災現場に見立て、火災を発見した所員が消火器による初期消火を行った後、自衛消防隊の消防車により放水活動などを行いました。



新たに導入した化学消防車も出動し消火訓練を実施



新設した消火訓練場では、今回のような大掛かりな訓練だけでなく、毎月、放水訓練などを行います。

当発電所では、油火災への備えとして、これまで配備していた可搬型大型消火器に加え、化学消防車を新たに配備したほか、従来の消防ポンプ自動車を水タンク付車両に変更することにより、地震で防火水槽等が使えない状況にも対応できるようにしました。また、昨年度より初期消火要員も増員するなど、自衛消防体制の強化に努めています。

これからも継続的に訓練を実施し、いざという時に迅速、的確に対応できるよう、初期消火活動の更なるレベルアップを目指し努力してまいります。

美しい自然を守ろう！～沿道の清掃を行いました～

東通原子力発電所安全衛生推進協議会(当発電所と施工会社で組織)は、5月21日(水)、東通原子力発電所中央ゲート前交差点から大平滝浄水場(県道むつ東通線の約2.1キロメートル)において、散乱された空き缶等の回収による清掃活動を実施しました。

平成12年度から実施している清掃活動も、今年で9回目となります。当日は、東通原子力発電所所員および施工会社社員の計44名(東通原子力発電所所員22名、施工会社社員22名)が参加しました。回収したゴミは70リットル入りのゴミ袋で可燃物が約21袋、不燃物が約15袋のほか、タイヤや鉄板等も回収されました。

参加者からは「きれいになって気持ちがいいです。」「これからも美しい川や山を大事にしていきたい。」などの声が聞かれました。



発電所に新しい仲間が加わりました

4月から新入社員11人が東通原子力発電所に配属となり、東通村の皆さまの仲間入りをさせていただいております。

一日も早く仕事を覚え、発電所の安全を支える者として一人立ちできるよう、そして、地域にとけ込み皆さまに親しまれる存在になれるよう頑張っておりますので、ご支援よろしくお願いいたします。



安全を最優先に！真剣なまなざしで研修に臨む新入社員たち